

## 【グリフィスの<sup>いっしょう</sup>一生】

(<sup>ほんみやう</sup>本名 ウィリアム・エリオット・グリフィス)

<sup>せいぼつねん</sup>生没年 1843～1928



### ① <sup>くろふね</sup>黒船<sup>み</sup>を見る (6 さい、1850 年)

グリフィスがまだ小さい<sup>ころ</sup>頃、お父さんに連れられて大きな<sup>ふね</sup>船の<sup>しんすいしき</sup>進水式を見に行きました。その<sup>ふね</sup>船こそ、のちに日本との<sup>こっこう</sup>国交を<sup>むす</sup>結ぶために<sup>たいへいよう</sup>太平洋を<sup>わた</sup>渡るペリーの「<sup>くろふね</sup>黒船」こと、サスケハナ<sup>ごう</sup>号でした。アメリカで<sup>とうよう</sup>東洋への<sup>かんしん</sup>関心が高まっている<sup>じだい</sup>時代をグリフィスは<sup>す</sup>過ごしました。

### ② <sup>ぼくし</sup>牧師<sup>き</sup>になろうと決める (20 さい、1864 年)



グリフィスが<sup>じゅうだい</sup>十代の<sup>ころ</sup>ころ、<sup>かれ</sup>彼の<sup>くに</sup>国 (アメリカ) で

<sup>せんそう</sup>戦争が<sup>お</sup>起こり、<sup>おおぜい</sup>大勢の<sup>ひと</sup>人が<sup>な</sup>亡くなりました。グリ

フィスも<sup>へいたい</sup>兵隊として<sup>たたか</sup>戦いました。戦争の<sup>ひ</sup>悲さんさ

を知り、キリストの<sup>おし</sup>教えにしたがって<sup>い</sup>生きる<sup>みち</sup>道を

<sup>ひとびと</sup>人々に<sup>つた</sup>伝えることを<sup>いっしょう</sup>一生の<sup>しごと</sup>仕事にしようと<sup>き</sup>決めて、<sup>べんきよう</sup>勉強するために<sup>ラトガー</sup>ラトガース<sup>だいがく</sup>大学に入りました。

③ 日本にほんの武士ぶしに出会であう (23 さい、1867 年)



大学で学まなびながら、グリフィスは若わかい人ひとたち

が通かよう学校がっこうで勉べんきょう強おしを教かえました。彼かれの生せい徒と

の中なかには、アメリカすすの進かんだ化学がくや学がくもん問もんを

学まなびに來た武士ぶしたちもいいました。福井ふくいから

來た日下部くさかべ太郎たろうはみんなが驚おどろくほど賢かしこい

がんばりやでしたが、大学だいがくを卒そつぎょう業まする前まえに肺はいの病びょうき氣なで亡なくなりました。

④ 福井ふくいの学校がっこうで教おしえる (27 さい、1871 年)



この頃ころの福井の人たちは、アメリカやヨーロッパの

進とんだ学ねっしん問しんを取とり入れることに熱ねっしん心しんでした。そのた

め、福井のお殿様とのさまはグリフィスを先生せんせいとして招まねくこ

とになりました。当時とうじの日本にっぽんで最もっとも進すすんだ内ない容ようの化学がくを、福井の生せい徒とたちはグ

リフィスから学まなびました。

⑤ 武士ぶしの時代じだいが終おわる (28 さい、1871 年)



日本にっぽん政府せいふによって廃藩置県はいはんちけん (※) が行とわれまました。福井のお殿様とのさまは東とう京きょうに引ひ越こ

廃藩前



しするよう命令され、とつぜん家来たちと別れなければならなくなりました。

殿様が福井を去るこ

とになり、お城で別れの会が行われました。殿様

は武士たちに、「今まで藩を支えてくれてありが

とう、これからは日本という国のためがんばってほしい。」と話しました。家来

たちもお殿様との別れをつらく感じました。グリフィスはその日のことを一生

わす  
忘れませんでした。

※<sup>はいほんちけん</sup>廃藩置県…それまで殿様を中心として地方を治めていた「<sup>はん</sup>藩」をやめて、  
「<sup>けん</sup>県」を置き、日本政府が全国をまとめて治める方法に変えたこと。  
殿様の代わりに、<sup>せいふ</sup>政府が決めた「<sup>ちじ</sup>知事」が県を治めることになった。

廃藩後



## ⑥ <sup>にほん</sup>日本の<sup>れきし</sup>歴史をしらべる (30 さい、1874 年)

<sup>あた</sup>新しい日本をつくるため勉強に<sup>はげ</sup>励む人たち

とともに暮らして、どうして<sup>にほんじん</sup>日本人はこんな

にがんばれるのだろうとグリフィスは<sup>おも</sup>思いま

した。そして日本人や日本という<sup>くに</sup>国を知るた

めには、<sup>にほん</sup>日本の<sup>れきし</sup>歴史をしらなければならぬ



かんが と考えました。のちにとうきょう がっこう おし 東京の学校で教えるようになってからも、グリフィスは  
おお ひと はな 多くの人と話し、アメリカ人とにほんじん 日本人とでちが 違うところやおな なじところがたくさん  
あることを知りました。そしてアメリカと日本、それぞれの文化を知ることが  
たいせつ 大切だ、と自分の国の人たちにつた 伝えようと思い、本にまとめました。

## ⑦ アメリカにほんのかけ橋になる

グリフィスがきこく 帰国してから書き上げた日本の歴史の本は、日本を知るためのすばらし

いほん 本として、なが あいだ 長い間、たくさんの人々に読

まれました。ちきゅう 地球に住むすべての人々の歴史がとうと 尊いもので、日本人もアメリカじん 米国人も

同じように、世界のためにがんばって生きているのだとグリフィスはかた つづ 語り続けま

した。60さい 60歳でぼくし 牧師をいんたい 引退したあと、たくさんの本を書き続けました。



## ⑧ さいご わか 最後のお別れ(83さい、1927年)

84さい 84歳でな なくなるまえ とし 前の年、グリフィスはおく 奥さ

んといっしょに、ふたたび ふくい 再び福井にやってきました

した。50いじょう 50年以上のあいだ 間に、まち 町のなにもかも

がすっかりか 変わってしまいました。でもふくい 福井の人たちは、グリフィスがいっしょうけ



んめい<sup>べんきょう</sup>勉強<sup>おし</sup>を<sup>かえ</sup>教えてくれたこと、アメリカに<sup>にほん</sup>帰<sup>おうえん</sup>ってからも日本を<sup>つづ</sup>応援<sup>つづ</sup>し続けて  
くれていたことに、とても<sup>かんしゃ</sup>感謝<sup>だいかんげい</sup>していました。グリフィスは町の人たちに大<sup>だいかんげい</sup>歓迎  
され、<sup>かんどう</sup>感動<sup>なみだ</sup>で涙<sup>なみだ</sup>があふれるのをおさえられませんでした。

### ⑨ ひとびと<sup>いの</sup>のしあわせを<sup>いの</sup>祈る

ふくい<sup>く</sup>福井<sup>ふくい</sup>で暮<sup>ふくい</sup>らしていたころのグリフィスには、福井の

ひと<sup>ひと</sup>たちがアメリカ人とくらべて、とてもおだやか

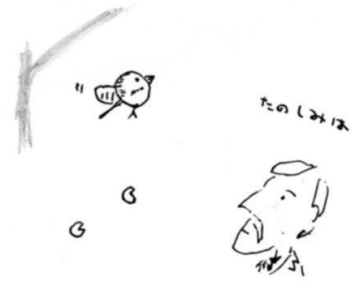
に、<sup>たの</sup>楽し<sup>い</sup>そうに<sup>み</sup>生<sup>み</sup>きているように<sup>みつよういじょう</sup>見え<sup>みつよういじょう</sup>ました。それは、必要以上のものをほしが

らず、<sup>にちじょう</sup>日常<sup>ちい</sup>の<sup>たいせつ</sup>小<sup>たいせつ</sup>さな<sup>かれ</sup>しあ<sup>おも</sup>わせ<sup>にほん</sup>を<sup>にほん</sup>大切<sup>にほん</sup>にしているからだと彼は思いました。日本

は昔<sup>むかし</sup>と<sup>くら</sup>比べて<sup>くに</sup>りっぱな<sup>くに</sup>国<sup>くに</sup>になっただけでも、そのためにがんばるだけではなく、

ほんとう<sup>ほんとう</sup>に<sup>たいせつ</sup>しあ<sup>わす</sup>わせ<sup>い</sup>か<sup>い</sup>どうか<sup>ふくい</sup>を<sup>ふくい</sup>大切<sup>ふくい</sup>に<sup>ふくい</sup>忘<sup>ふくい</sup>れ<sup>ふくい</sup>ず<sup>ふくい</sup>に<sup>ふくい</sup>生<sup>ふくい</sup>きて<sup>ふくい</sup>ほ<sup>ふくい</sup>しいと、グリフィスは福井の

ひと<sup>ひと</sup>たちのために<sup>いの</sup>祈<sup>いの</sup>りました。



年表

- 1843 <sup>べいこく</sup> 米国ペンシルバニア州 <sup>しゅう</sup> フィラデルフィア <sup>う</sup> 生まれ【①】
- 1865 ラトガース大学 <sup>だいがくにゅうがく</sup> 入学 (場所 <sup>ばしょ</sup> は米国 <sup>べいこく</sup> ニュージャージー州 <sup>しゅう</sup> ニューブランズ  
ウィックで、ニューヨークからも近い)【②】
- 1867 ラトガース大学で <sup>にほんじんりゅうがくせい</sup> 日本人留学生と <sup>し</sup> 知り <sup>あ</sup> 合う【③】
- 1869 大学を <sup>そつぎょう</sup> 卒業し、<sup>ぼくし</sup> 牧師になるための <sup>べんきょう</sup> 勉強 <sup>つづ</sup> を続ける
- 1870 4月 <sup>くさかべたろう</sup> 日下部太郎のお <sup>そうしき</sup> 葬式 <sup>で</sup> に出る 12月 <sup>らいにち</sup> 来日 ( <sup>よこはま</sup> 横浜 <sup>とうちやく</sup> に到着 )
- 1871 3月 <sup>ふくい</sup> 福井に到着、<sup>がっこう</sup> 学校 ( <sup>めいしんかん</sup> 明新館 ) で <sup>じゅぎょう</sup> 授業 <sup>をはじめる</sup> をはじめる【④】
- 8月 <sup>はくさん</sup> 白山の <sup>ちようじょう</sup> 頂上 <sup>のぼ</sup> に登る 10月 <sup>ふくいははん</sup> 福井廃藩 <sup>しきてん</sup> の <sup>で</sup> 式典 <sup>に出る</sup> に出る【⑤】
- 1872 1月 <sup>とうきょう</sup> 東京の <sup>きょうし</sup> 学校教師 <sup>よ</sup> として呼ばれ、<sup>さ</sup> 福井 <sup>を</sup> を去る
- 1874 <sup>きこく</sup> 帰国して、<sup>ぼくし</sup> 牧師になる <sup>べんきょう</sup> 勉強 <sup>つづ</sup> を続ける ( <sup>さんねんご</sup> 三年後 <sup>ぼくし</sup> に牧師になる )【⑥】
- 1876 『ミカドズ・エンパイア』 ( <sup>にほんし</sup> 日本史 と <sup>にほんたいざいき</sup> 日本滞在記 ) <sup>しゅつばん</sup> 出版【⑦】
- 1927 <sup>ふたたび</sup> 再び <sup>ふくい</sup> 福井 <sup>き</sup> に来て、<sup>だいかんげい</sup> 大歓迎 <sup>よんはくいつか</sup> される ( <sup>たいざい</sup> 四泊五日 <sup>の</sup> の滞在 )【⑧】
- 1928 <sup>な</sup> 亡くなる ( <sup>べいこく</sup> 米国 <sup>しゅう</sup> フロリダ州 <sup>ウィンターパーク</sup> ウィンターパーク )



NY州  
ステネグティ  
ウィリーのあはれ

NY州  
ニューブランズウィック

90-の  
おはれ

